

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達センターたっく		
○保護者評価実施期間	2025年11月17日		～ 2025年11月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年11月17日		～ 2025年11月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	グループ会議や研修を行い、日々の支援を振り返りながら職員間で意識や視点を共有しています。学びを現場に活かすことを考える場になっています。	会議や研修後に、「現場でどう活かすか」を話し合ったり、研修報告書で記入する欄があり、思いや意見を出しやすい形になっています。	テーマを決めた振り返りを行い、実践した支援内容とその後の子どもの姿の変化を記録・共有していきます。支援前後の様子や職員の気付きを整理することで、学びが日々の支援にどのようにつながっているかを、職員同士で具体的に確認できるようにし、共通理解として深めていきます。
2	専門的な職員(OT/ST/PT)が支援に入り、職員間で情報や視点を共有することで、こどもの理解が深まっています。発達段階や特性の捉え方・環境調整といった専門的な視点を現場職員が日常の支援に落とし込むことで、より一貫性のある関わりができると思います。	こどもの姿を具体的に伝え合い、専門的な見立てを現場のことに置き換えて理解につなげています。支援計画や日常の関わりに、専門的な視点を反映しています。	定期的に専門的な職員と振り返りの時間を設け、支援の効果や課題を確認していきます。また専門的な職員が不在時でも同じ視点で支援が行えるように、支援の考え方を共有、引き継いでいけるといいです。
3	自己送迎のため、保護者からの質問にその場で応じることができません。降園時には、その日の活動やこどもの様子を直接伝えることができている。気になる点をすぐに確認・共有できることが、保護者の安心感や信頼関係につながっていると思います。	降園時に、こどもの姿や活動の様子を具体的に伝えていきます。保護者の気付きや疑問をその場で受け止め、丁寧な対応を心がけています。	伝えた内容を職員間でも共有し、継続的な支援につなげていきます。また保護者には、支援のねらいや成長面・環境の工夫・安全面の視点を含めて伝えていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動の様子や環境の工夫、安全への配慮は行っているが、支援の意図やねらい、環境の工夫などが保護者に十分伝わっていません。	発信が、状況説明・連絡事項中心となり、支援の背景まで伝えきれていないと考えられます。	職員間でこどもの目標や支援の意図を共有し、活動や環境設定のねらいを共通理解として整理します。そのうえで保護者には、「どのような力を育てるための活動か」「なぜその環境の工夫や安全配慮を行っているのか」を添えて伝え、日々の支援の意図や関わりを理解しやすい発信につなげていきます。
2	地域・園の交流、保護者同士・きょうだいのつながりが、行事や特定の対象に限られ、継続的・発展的な交流に至っていません。	交流の目的や位置づけが明確ではなく、無理なく継続できる仕組みが不足していると考えます。	地域交流のねらいを「社会とのつながりを感じる」「いろいろな人と出会う」「経験を広げる」など、こどもの育ちに即した視点で職員間で共有し、日々の活動に入れながら進めていきます。
3	保護者同士が日常的に話をしたり、こどもに合わせた関わり方について学び合う機会が少なく思います。	学びと交流を組み合わせた取り組みが十分ではないことが考えられます。	職員がファシリテーターになり、安心して話せる環境づくりを行い、こどもの発達や関わり方などをテーマに、経験や悩みを共有できる機会と保護者同士が自由にざっくばらんに過ごせる場を設けていきます。